

小田原市青少年問題協議会 会議録

- 1 日 時 平成29年7月7日(金) 午後3時00分～4時30分
- 2 場 所 小田原市役所 議会全員協議会室
- 3 出席者
 - (1) 委 員 加藤憲一(会長)、橋本輝夫(副会長)、石井政道、石幡保雄、磯田待子、今屋健一、大川良則、大場得道、角田よう、川瀬貴美子、小林俊之、塩原正美、下田成一、星賢一、松嶋由紀子
 - (2) 事務局 山崎子ども青少年部長、北村子ども青少年部副部長、吉野青少年課長、浅野青少年課副課長、淵上育成係長、脇主査
- 4 議 事
 - (1) 平成29年度青少年関係事業について
 - (2) 青少年活動友好都市交流事業について
 - (3) 意見交換
 - (4) その他
- 5 会議の概要

(1) 平成29年度青少年関係事業について

事務局

資料1「平成29年度青少年関係事業」について説明。

青少年団体育成事業 / 地域の見守り拠点づくり事業
地域の子どもの活動情報発信支援事業 / 青少年環境浄化推進事業
青少年と育成者のつどい / 青少年善行賞等表彰式
指導者養成研修講座「おだわら自然楽校」 / 指導者派遣事業
地域・世代を超えた体験学習事業「あれこれ体験 in 片浦」
青少年活動友好都市交流事業 / 青少年相談体制充実事業

議 長

平成29年度青少年関係事業について、事務局から概略を説明させていただいた。皆さんから、ご質問やご意見があればお願いしたい。

委 員

昨日ニュースで聞いたのだが、平塚かどこかで、長年、片浦でやっているような子どもたちのキャンプが旅行業法に触れるという事で、中止を余儀なくされたという事だが、小田原市では問題はないのか。

事務局

あれこれ体験事業、ロビンフット事業について、旅行業法に触れる可能性があるという事で、昨年度、県からの周知等があり、旅行業法に触れないよう検討しているところである。どういったところが旅行業法に抵触するのかを簡単に申し上げると、旅行業者が本来行うべき運送、例えばバス、切符の手配、また宿泊の手配などをするときには、

登録業者である旅登録業者行業者が業を行うこととなっている。簡単に言うと、旅行業者の仕事を取ってしまうのではないかとこのところが問題の根にある部分である。あれこれ体験については、テントを張るが、これは宿泊施設には該当しないという事で、宿泊については問題ない。また、運送の手配については、根府川駅に集合するので、切符等の手配は各自で行うため、運送の手配も問題ない。ロビンフットについては、複雑になるが、参加費をいただいている中で宿泊を実施している事には変わりはないが、参加費を宿泊費に充てる事に違法性があるという事なので、ロビンフットはプログラムにかかる費用、保険料、記念誌作成費用等が別途かかっているため、参加費をこれらに充てるというスキームで実施すれば問題ないという事で、県の方に3月に確認し、本年度実施の方向で進めている。

委員 全国的に中止になっている自治体が多いので、今の回答を聞いて安心した。

(2) 青少年活動友好都市交流事業について

事務局 資料2「青少年活動友好都市交流事業」について説明
(質疑応答なし)

議長 ご意見もないようなので、岸和田市との青少年活動友好都市交流事業については、今年度をもって終了ということでご了承いただけますでしょうか。

(全委員了承)

議長 本事業は今年度をもって終了となりますが、青少年交流という大事な視点を持ちながら、今後も事業に取り組んでいただくことをお願いし、次の議題へ移ります。

(3) 意見交換について

議長 終了予定まで1時間程度ある。有意義な意見交換ができればと思う。まず、事務局から今回のテーマについて説明願いたい。

(事務局説明)

議長	<p>事前に 3 つの視点をお渡ししているが、日ごろ皆様方に取り組んでいただいている中での様子や、今後に向けてのいろんな意見交換をできればと思う。まず、最初の視点、「①青少年が地域の活性化に貢献している事例」が多々あると思う。</p> <p>学校というフィールドであったり地域というフィールドであったり、また諸団体がやっておられる活動の中であったり、そのどこにも入らないものもあるかもしれないが、そういったところでの事例等について、今日皆様方に紹介する意味で少しお話していただければと思う。</p>
委員	<p>私は青少年健全育成連絡協議会の者である。小さな単位自治会で私のよく知っているのは酒匂 12 区の 450 世帯である。春祭り、夏祭り、区民祭、どんど焼き等の行事のたびに、子ども会を卒業した中高生、大学生、働き始めた子たちが結構多く参加してくれている状態である。地域活性化というのかわからないが、残念ながらまだ主役とはいかないが、自分たちが用意した中でもちつきのサポートや、夏祭りの模擬店では売り場の手伝いや片付けの手伝いをしてきている。春祭りは多くの御神輿があっても地元では担ぎきれないと聞かすが、この地域ではこの子たちが来てくれるのでなんとか担ぎきれている。そういう意味では本当に恵まれた地域だと思う。なぜその子たちが来るのかというと、小学校の頃から子ども会でつながっているのだが、とても居心地がいい場所だったのだと思う。具体的には、どんな祭りでも終わると公民館に集まって反省会をする。ほとんどの子ども会の子どもも来るし、中高校生もやって来る。ある程度食事をしたら、公民館の周りに家が何もない場所なので、公民館の裏側で、その時は特別、夜遅くまでドッジボールをしたりして遊んでいられる。特別な時間をそこで過ごせる。祭りごとに楽しんで、とてもいい思い出ができたのだと思う。小さな公民館だが、70~80 人がわっと大騒ぎしている感じ。そういった事で今につながっているかなと思った。</p>
議長	<p>小学生は子ども会に参加しても中高生は抜ける地区が多いと思うが、そこまでつながっているのか。</p>
委員	<p>つなげるツールが、中高生は LINE である。僕ら青年会とは、だいたいみんな LINE でつながっていて、僕らの方から「もうそろそろあれが近づいたぞ」と LINE を送ると「出られる人ー?」「はーい」と手が挙がって集まってくる。区民祭も「ムカデ競争で何人か足りないから頼むよ」と言うのと「行く行く」なんて言って、そんなつながりがある。</p>

子どもたちに合わせて僕らは勉強しながら LINE もやっている。

議長 各地区、苦勞されていると思うが、委員の地区はいい形で世代間がつながっているという事だと思う。その他どうか。

委員 小田原の中学校は、おかげさまで最近だいぶ落ち着いてきたので、子どもたちが地域に貢献する場面がどこの学校でも多くなって、実際に数字も上がっていると思う。よくボランティアに出るようになって、例えば連合会がやっている「クリーンさかわ」に多くの生徒が参加する。私の知っている限りでは、白鷗中と酒匂中さんでは、生徒会が集めて、自治会とは違った独立した場所を担当してやっているようだ。地域の活動に学校ぐるみで参加していこうと勢いがあるのかなと思う。手前みそだが、私の泉中学校区では 2 つの自治会があるので、夏のサマーフェスタにボランティアとして参加したり、自治会の運動会や区民祭にもボランティアとして参加したりしている。さっきの話のように、終わった後にメリットがあるのかなと思う事もあるが、意外と子どもたちはやる事を楽しんでいるのかなと思う。仲間と一緒に過ごせるという、見えない価値観を喜んでいるというか。「ありがとうね」と言うだけで終わるのだが、そういう感じで、最近いろいろ協力できるようになった。この前キッズマラソンがあった。今騒がれているが、中学校は土日には部活動の大会や練習などがあるので、「さあ行こう」と言っても行けない子もたくさんいるのだが、キッズマラソンは、テスト後の土日で、部活の年に一度の大切な大会があるので、正直なところ顧問もあまり行ってくれるなという気持ちでいる。この前報告を受けたが、学校は関与せず自分で面倒な手続きをして、うちの学校から 18 人が参加した。「行ってよかった、おもしろかった」という。うちの学校だけではなく、市内全体の中学校を見ても、今までお世話になった分お返しできるかわからないが、少しでも中学生が貢献できるようにという事で、地域のそういうボランティア活動や、自治会の行事には参加をするようにはしている。人気のある行事、人気のない行事もあるかと思うが、子どもたちが行って楽しかったとか、やりがいがあったという事になると、子どもたちもそんな形で一生懸命参加している。変に出番を作られてしまうと、中学生も負担に感じる事もあると思う。「中学生にこれやってもらえないか」とか。普通の参加者として一緒にやってもらおう姿勢の方が中学生もいいのかなど。私も見ていて、気楽に参加しているのでこれが続くといいなと思っている。そんな形で今、中学生が参加するようになって私もとてもうれ

		<p>しいと思っている。何か見えない価値観とか、楽しさとか、「地域の人と一緒に掃除したら面白かったよ」とか感想を聞くとそんな事がいいのかなと思っている。いろいろご迷惑をかける事もあるかと思うが、そんな形で今、中学生も参加するようになったと思っている。</p>
議	長	<p>確かに、クリーンさかわは各エリアとも、中学生もたくさん来ているし、区民体育祭はいい例で、どこの会場へ行っても中学生がスタッフに入っががんばっている。それが今、主体的にやっているのではないかという話で、これは非常にいい傾向だと思う。白鷗中、酒匂中はクリーンさかわの参加を学校で推奨しているのか。</p>
委	員	<p>クリーンさかわは地域の沿線の学校はどこも参加しているが、私たちは自治会の中に入って自治会の皆さんと一緒に活動しているが、白鷗中、酒匂中は生徒会が「こういう事業があるよ」と自治会の方から連絡をいただくのだろうが、それで人を集めて、学校で集合をかけて、自分たちで決めたところをやっているようだ。私たちは自治会の集合場所に行って参加している。推奨しているというか、「いつもあるから頑張っていこうね」、という形だと思うが。生徒会で声をかけて、一つの生徒会行事になっているのかもしれない。ほかにも、酒匂中、白鷗中は箱根駅伝のお掃除など、生徒会がリーダーシップを発揮して動いているような感じである。どこもやっているのだろうが、ニュースなんかで皆さんに一番わかりやすいのはそういう学校がやっいらっしやるかなと思う。</p>
議	長	<p>酒匂中学校は以前、市の方で進めている「身近な公園プロデュース事業」に生徒会長さんが非常に意欲的に取り組んでいただいて、生徒会全体として、酒匂浜公園の花と緑の取組を主体的にやっただいて、その後、どうなっているか気になっているが、学校の伝統になっているのか。</p>
委	員	<p>私は酒匂に住んでいる。中学生が大変活躍して、敬老会にも吹奏楽、接待係として、56名が集まってくれた。お年寄りが来た時にお席まで接待してくださる。核家族が多いので、お年寄りと接する機会はさほど多くないと思う。こういう時に、お年寄りの手を引いてちゃんと席まで連れて行ってくださる。これが大変人気で、もう3年くらいたつ。</p>

生徒会長さんたちが、寸劇で、今オレオレ詐欺が流行っているの、上手に演出していただいている。まちづくり委員会の分科会が主催している「ふらっとエスケイ」でも寸劇をしていただいている。区民体育祭も大勢の中学生がボランティアさんで来てくださっている。地域の夏祭りには吹奏楽が来てくださる。市長さんがおっしゃった浜公園は、今は私たちがお花を植えてきれいになっている。そんな事をやって、みなさんが喜んで参加して下さり、いい事だと思う。これからもどんどん、中学生時代からボランティア活動に関わっていただければ、将来いい世の中になるなど期待している。

議長 敬老行事はいつも私も同じ日に複数飛び回っているの、酒匂の会場で寸劇をやるのは知っているが見た事がない。1回見てみたいものだと思う。とてもいい雰囲気が酒匂の中で、中学校と皆さんの間にあると色々な場面を感じる。

委員 私もいくつか回っていて、橘の敬老会も、橘中の子がいるし、健民祭もやっているし。泉中は敬老会はいかないが、いろんな学校がやっていますよね。花と緑みたいなのは、城北さんがタイヤを使って、地域に花を伝統的にやっていらっしゃる。泉中も今年から、夏休み中に1回くらいは部活動で地域ボランティアをやろうと、教頭が「あなたの部活動は何をやってくれるんですか？」と集めている。アリーナで練習する前の30分だけ美化作業をしようとか。あるいは地域に出て環境美化の手伝いをしようとか。「やるときにはできるだけ体操服で目立つようにやってくれ」と。そんな事を今年の夏から始めよう。学校がみなさんにご迷惑をかけなくなったところで、色々始めていて、中学生が頑張ってくれているなという感じがする。

議長 いい傾向の話が出ておもしろいが、2つ目のテーマにも絡むのだが、今日は大窪、桜井の自治会連合会長さんがお越しになっている。地域の立場から青少年がこんなふうに関わってくれているよとか、あるいは地域の方からこんなふうに関わってくれればいいのだが、という話があれば、どうぞ。

委員 地域が中学生に期待するものはそれぞれであっていいと思う。事情もそれぞれ違って当然だと思うが、高齢化、人口減少がスピーディーに進んでいる時代で、中学生は何かあった場合に支援する側に回るのか、支援を受ける側なのか、議論があると思う。我々は地域の防災訓練の

時、2年ほど前から中学生に参加していただいている。三角巾の使い方は昔からある手法だが、年配者はなかなかこれを覚えられない。三角巾の使い方を中学生にやってもらっている。こういう手法をやってもらう事よりも、中学生が参加する事で、訓練の場の雰囲気がガラッと変わる。そういう局面が今までなかった。若い人達が訓練の場に大挙してくると、雰囲気が非常に和らぎ、年配者も心が癒される面も見受けられ、中学生が関わる事が私は場を盛りあげ、雰囲気が良くなると思う。防災訓練の雰囲気ではなくなる。2年ほど前からやっていて、今年もちょうどバザールの日なので、午前中は防災訓練、午後はバザールという事で学校にお願いしてある。我々は中学生をもう少し、いろんな面で大人扱いする時代じゃないかなと感じている。これからは児童、生徒について、積極的に地域の大人が関わっていかないといけないというのが私の考えである。地域として、中学生にいろんなところに参加していただくようお願いしたいと考えている。

議長

地域の側にとっては、災害時の対応は大きなテーマだが、私も以前城南中学校で行われた災害図上訓練に参加した時に、中学生が入っている事で各テーブルの臨場感が、「大人たちも頑張らないといけない」と俄然なっていて、それは酒匂でも同じだったので、それが平場での防災訓練ではまた開放的で明るくなっているのかなと想像した。中学生もそういう場で非常にやりがいを感じて帰っていくのではないかなという気がする。おそらくそういう傾向はどこの地区にもあるかと思う。

委員

校長先生がクリーンさかわのお話をずいぶんされたが、ざっくり4,000名参加されて、そのうち桜井は500名くらいである。そのうち100人が城北中学校。校長先生はある程度変わるが、部活の生徒さんを中心に必ず毎年参加してもらっている。花いっぱい運動は青少年育成会さんがやっという感じがするが、年に3回くらい、先々週の日曜日だったか、暑い日に相当数参加いただいて続けている。桜井地区としては今、一番はやはり、防災訓練。小田原市のいっせい防災訓練をどうしようかという議論があるが、残念ながら、今は一部の中学生が参加の形である。学校とのタイアップができていない。桜井の場合は、警察の駐在所の方、中学校1校、桜井小学校と報徳小学校、幼稚園の園長先生とかで、年に2、3回、地区の問題を話し合っているが、その中で、つい先だっても福岡であったが、普通の日の昼間に災害が起きた場合に一般の方は勤めに行っていて、結局はいない。他の地域で被災された地域を見ると、中高生がかなりボランティアの面で活躍されている。

今後、校長先生、今の体制だと難しい点もあるが、いずれは地域の防災訓練と一緒にやりたいねと話を進めている。顔の見えるというか、知り合いになっていくのが大事だと思う。そうでないと、全然知らない人同士があいさつをするのは難しいし、いろんな行事に積極的に地域のお子さん、中学生も含めて参加いただくと。自治会の中でもそういう議論があって、いろんな仕掛けをしていきたいというのが今の段階である。

議長

そういう地域の側と、学校の話が少し出ているが、学校との連携が相当進んできた感じはする。

委員

私の立場から言わせていただくと、教育の多忙化。「防災訓練、出してくれないか」と学校に投げられる。私たちは呼び掛ける事はできるが、地域は呼び掛けだけを求めているわけではない。「先生も子どももまともてくれ」という含みがあるわけである。そうすると誰か教員が行かねばならない。果たしてそれは地域の防災訓練になるのだろうか。地域が呼びかけて集まるような防災訓練をして、そこに私たちも地域にいるから管理職とか、何名か行く。そんな時も地域の子どもたちを把握できるようにしてくれれば、呼びかけてくれて、「行きなさいよ」とつなげるような流れを作らないと、やはり難しいのかなと私は思っている。今、いろんな事を中学生がやっていて、私はとてもいいと思っているが、地域が中学校に丸投げすると、だんだん地域が崩壊するのではないかと思う。だから、地域の行事に行く人達が自分の子どもや孫を連れて行くという努力をして地域行事に参加する体制を作る事が、これから地域のいろんな行事を進める上で、難しいけれど、そこをやらないと、いろんな事で人が足りないという事になってしまうかなと思う。集合場所に旗を立てるなど、中学生を呼んだ時にせめて中学生の居場所を作っておいてもらおうと、いろんな地域行事もありがたいのかなと思う。その代わり、集め方や集まった時に誰がそれを把握するのか、準備していただくと非常に我々も応援しやすい。

議長

小中学校で先生が超ご多忙というのは良く存じ上げている。今の中学校の校長先生は教育委員会からお見えになって、そういう議論もあったが、クリーンさかわの例を見ていると、来た人は喜んで、楽しんでやってくれている。防災訓練などでも教条的にならなくて、やはり、ちゃんと、中学校が参加できるような場を作りたいというのが、城北中の校長といろいろ話している段階である。

そのへんはいいところをそれぞれ見出していただいて。今日は東高校の先生もお越しである。高校になると地域とのかかわりはまた違う局面になるし、広域で集まってくる生徒さんなので中学生のようにはならないかもしれないが、高校生の世代にはどんな可能性があるのか、どのように考えていただけるか。

委 員

このテーマの「地域の活性化」、このキーワードは、全国の商業高校で取り組んでいるものである。今までは商店街に「城湯屋」を出店していて、今は校内の敷地に入れているが、地域の商店街のシャッター街化が進んできて、それを何とか活性化していこうというのが、高校生のチャレンジショップのスタートだった。始めたのは多分京都あたりで、15年前くらいに始まっているが、最初は高校生がやっているという事で、初期の頃はたくさんお客さんが来てにぎわっていたが、だんだん当たり前になってきた。「ここでも、ここでも、やっているのか」、と全く目新しいものではなくなってきた、集客が落ちてお客さんが来なくて、どこの学校でも年に1回ダウンとやるような形になってきている。当初の「シャッター化を防ごう、地域活性化をしていこう」という目的から外れてきている。その後、商業教育で行ってきたのが、企業とのコラボ、商品開発へ進んできて、商品開発をする事で活性化していきましょうという取り組みが始まって、商業科目の中に商品開発という文科が決めたものも実際ある。うちでも片浦レモンを使ったラスクや、アジを入れたバーガーなどをやっている。実際に商品開発できたものもあるし、企画だけで終わってしまったものもある。どうしても、1年のサイクルの中で授業の中で取り組んで、商品ができればいいが、できずに終わってしまうとそこで打ち切りで終わってしまう。次の年度は新しい子が新しい事を考えるので、なかなか活性化に進んでいけないという事が実際にある。最近、全国でも取り組んでいるところが多いのは、県や市とコラボして、観光を目玉にした商品開発である。うちでも「西さがみの観光ビジネス」という科目があるので、昨年も東海大学だったか、大学の観光学部が主催している外国人おもてなしコンテストというのがあるが、うちの生徒も何点か応募して、昨年は最優秀賞をとった。小田原でこういうようにして、外国人をおもてなししよう、と。でも結局それで終わってしまって、商品化しない。確かにいい企画だが、実際やるとなると資金がかかる、その資金の出どころは当然学校にはないから、企画だけで終わってしまって活性化につながっていかない。地域の活性化のためにできる事は、商業高校としてはいっぱいやる事があるので、それをいかに企画で終わら

せないで稼働させるか。企業さんもお金にならないと一緒にやってくれないので。「これは儲からないよ、これは無理だよ」、で終わってしまうので、そういうハードルをいかに超えて地域を活性化していくかという事は、これからも高校としては考えていきたい。地域の中の自治会の方たちと、というのもあるが、小田原市内から来ている子たちは約半数でそれ以外の子は市外からが多いので、実際に地域と密着につながった活動というのはなかなかできづらいのが実情である。

議 長 企業に言っても、なかなか儲からないからという事だったが、生徒さんが企画したものを地元の関係業界の人達に相談したり、企画を持ち込んだりアドバイスを受けたというやり取りはあるのか。

委 員 企画書を作ってプレゼンしに行くので、それも高校生がやるのだが、実際には裏では教員が「こうやれよ」とやっている。また校長が「こんな事やれ」と言っているが、「誰がやるのか、俺たちがやるんじゃないか」、みたいに多忙感を感じている。私は「生徒主体でやるんですよ」と言っても、「どっちみち陰で俺たちが動くんじゃないか」というところも出てくるので、今の高校生が自分たちで考えて、自らの発想で主体的に動くところまでなかなかいかない。主導権は、教員が引っ張っていかないとなかなか実現しないというのが実情である。

議 長 例えば、企業に勤められる方で、そういう方は地域にたくさんいらっしゃるので、教員の方が難しければ地域のそういう方に応援を頼むとかね。あと、お菓子屋さんの委員もいられるので、そういう人に入ってもらおうとか。そういうのもありなのかなと思うが。部活と一緒に、地域の中のサポーターについてもらおうとか。

委 員 地域の青少年の団体というと、私は教員だから、知らない世界の人達もたくさんいる。「あの人そうだったの」というふうに、後から話をしていると思う事がある。この前も話をしていたら、大工さんをやっていて、何か話が違うなと思ったら「私は一級建築士で設計もやっているんです」と。「そういう事ならこの人にこちらもやってもらったらよ」、って、「図面かなんかばばっとできるんじゃないの」って。うまく動かせばいいなと思って。さっき、私は地域の中で、見えない価値観に子どもたちはつられるという話をしましたよね。だけど、お祭りのお手伝いとか、健民祭もジュースが出る。あれは、そんなに数は多くないけど、でもまあまあ私はあまり心配していない。

もしいろんな企画をする時にはそういう方たちがスポンサーを見つけてきて win-win の関係が作れるようなものをしてくれると、子どもたちが「ちょっとおもしろそうだから行ってみるか」と一歩踏み出せる事があるかもしれない。今は物が豊富だからそんな **ことばかり** でもないけど。

議長

今2つ目のテーマを話してもらっているが、地域の側の状況や、学校でできている事、できていない事、また先生方の悩みというか、校長先生のお悩みも今伺ったが、逆に、今日は団体として青少年の健全育成に関わっていらっしゃる方もいらっしゃって、そういったところでも青少年の育成を通じて、結果的に青少年の育成につながっている地域に関わっていく。あるいは先ほどの防災みたいなテーマにつながっていく事をされているが、今日は青少年育成推進員協議会の会長がいらっしゃっていて、被災地ツアーなどもやられているが、青少年が学んで地域に貢献していく事に向かって、意識して取り組んでいらっしゃると思うが、そのあたりを少しお話いただければと思う。

委員

非常に難しい話だが、私どもは青少年健全育成推進員協議会というところでやっている。私は市内の扇町に住んでいるが、地域の色々な組織が壊れ始めている。まず子ども会がなくなった。私の入っていた青年会も解散した。様々な地域のインフォーマルな集まりが消滅しつつある。実際のところ、先ほどのお祭りのお話は非常にうらやましく思ったが、私どもの地域には八幡神社の秋祭りがある。私が子どもの頃は、子ども会が主体になって神輿を運行していたが、今は子ども会がなくなって担ぐ子どもを集めるのに大変苦勞している状況である。私どもは育成推進委員をやっているので、「地域のお祭りの中に中学生を運営者の一人として参加させてもらえないか」と申し入れたが、現状はなかなか地区の方からは受け入れてもらえないが。私がその願いをしたのは、地域の活性化やお祭りの活性化も若干はあるが、どちらかというと、地域の健全な高齢者を含めた大人と中高生が触れ合う事が、彼らの育成の中では大きい要素があるかなという考えのもとにお願いをした。あと数年はかかるかなというところである。地域で小中学生、高校生の青少年の受け皿作りが必要だと、今、聞きながら思っている。特に青年会、昔でいう青年団のような集まりが今はなくなっている地域が多いかと思うが、今屋さんのところのようにある地域もあるわけなので、できればもう一度再構成できればいいのかなと思っている。

話は変わるが、地域少年リーダー養成講座「ロビンフット」だが、これは市から委託を受けて私どもが企画運営をしているが、実際に運営する中では小田原市で活動しているジュニアリーダーズクラブ(中高生)、シニアリーダーズクラブ(大学生～30歳くらいまで) というのがあって、特にジュニアリーダーズクラブに多大なお手伝いをしてもらって非常に感謝している。同時に彼らも1年通してやっていると、自信にあふれた中学生に成長してくる。例年4月にジュニアリーダーズクラブの総会があるが、そこに初めて入った子が、養成講座(野外研修が1泊2日、事前研修、本研修が2泊3日、事後研修が2日、ツアーマーチが1日)都合8日間一緒に過ごすのだが、1年間で素晴らしく成長する。地域もそうだが、ともに中高生が参加することで成長するという事を考えると、地域の活動の中の活性化という側面も大事なかなと思うが、成長と育成という面も見ていただければと思う。

議長

非常に大事なお話だったと思う。受け皿になる活動があれば、そこに参加する機会があれば、青少年は必ず成長する。そういった場自体がなくなってしまう事が課題だと思う。市P連から参加されているが、お子さんがまさにその世代でもあると思うし、同じ世代の親御さんの様子も含めて、PTAの立場からこんな可能性、こんな課題があるのではないかと話を話していただければと思う。

委員

小学校PTAとして参りまして、中2と小5の娘がいる。中2の娘が家庭部に所属していて、近々、毎年開催されているお弁当レシピコンテストに参加するために仲間同士で地元の食材を使ったメニューの開発に励んでいる。入選すると県大会進出なので、レシピが広く紹介される事により、地元の食材のPRにもつながるのではないかと。先ほどのお話で商品開発は難しいという事だったが、食材のアピールにはなるのではないかと私は考えている。小学校6年生が参加する体育大会に向けて、児童たちは朝練習をするが、その場に地元の中学校の主に陸上部の子達に来て、各種目、例えば速く走るにはどう走ったらいいかなど、アドバイスをしてくれる。交流の場にもなってその子にとってより良い影響があると思う。最近思った事だが、今年度は我が小学校でも放課後子ども教室が始まって、人気があるようで、教育者のOBの方が入ってくださっているとの事である。スタッフとして将来的に青少年の方たちが入っていただくと、緊張気味のお子さんものびのびと学習できるのではないかと考えている。年が近い若者が入ってくれる事で双方にメリットがあると思う。入ってもらおう若者に対しても、

- 地域に貢献し、地域に対する愛着心も湧いて、心ははぐくまれるのではないか。
- 議長 小、中はどちらか。
- 委員 今日いらしている校長先生にお世話になっている泉中学校、富水小学校。
- 議長 家庭部は初めて聞いたが、どこにでもあるのか。
- 委員 泉中ぐらিদらうか、もっとありますか。家庭部って。でも、泉中は多くて、活動の幅も広いし、すごい。
- 議長 小学校の子どもたちに中学校のお兄さんお姉さんが指導するというのは非常に理に適っていると思う。富水小も放課後子ども教室が今年から始まったと思うが、例えばそういうところに、中学生は難しいかもしれないが、小田原高校に児童文化部というのがあったが、今でもあるのか。そういう近い所での縦のつながりは、意外と子どもたちが育つ上でとても大事だと思う。
- 委員 中学生の部活動でも、今は大会前なので卒業生が来る。中学生を放課後児童クラブで活用したり、中学校もこれから補習なんかをやるときに高校生も来る。自慢しに来ることもある。うちは運動会でフォークダンスをやるが、卒業生も入っているよという時間がある。PTAとか卒業生が、「どうぞお入りください」と言うとなつと入ってくる。今のアイデア、中学校には高校生に来てもらって、小学校には中学生が行って勉強を教えるという流れができるとおもしろい。
- 委員 縦のつながりが薄れてきて、学校自体にそういう組織を作ってあげないと、なかなか交流が生まれないのでそういうのがあるといいなと思った。
- 議長 ぜひそういった事も学校の方にも、教育面で伝えていくといい。
- 委員 更生保護女性会という名前を聞いてもどんな活動をしているのかよくわからない方もたくさんいるかと思う。こういう話での発言は、直接青少年と関わる事がない部分なので難しいのだが、実際にはもう罪を

犯してしまった少年たちの立ち直りを女性の立場で支える活動をしている。少年院や更生保護施設への訪問活動や、生け花をする事で気持ちを明るく持ってもらえるような活動をしている会である。少年院の院長先生等ともお話をする機会もあるが、一番印象的なのはそういう少年たちに一番欠けているのは自己有用感である。自分が誰かの役に立っているという思いが非常に薄い子どもたちが多い。その為にいろんな活動をしていくわけだが、例えば、封書に貼られた切手をぎっくり切ったものを皆さんから集めてもらって、それを切手の回り 5 mmを残して切っていく作業をする中で、それが実際にどういう自分たちの役に立っているのかという事を体験してもらっているが、今、皆さんの話を聞いて、学校、地域、子ども会、いろんな立場があると思うが、もしも少年たちにそういう場が提供されていたら、たぶん今そういう場所で生活する事はなかっただろうなど。話をしてみると、本当に素直で明るくて、どこでどう道を間違えてしまったのかなと思う事が時々あって、胸が痛くなる事がよくある。難しい事はよくわかるが、なんとかして、子どもたちが「自分が誰かの役に立っている、役に立ってるんだ」という経験をほんの少しでもしていく事で、ひいてはそういう少年たちを減らしていけるのかなと、皆さんの話を聞いて思った。何十年も前に私も子育てをしたが、そのときにも「時間、仲間、空間の 3 つの間がない。」という話をよく講師の先生から聞いた。30 数年前の話だが、今はもっと厳しくなっているのかなと思いつつ、どこかで誰かがそれをつなげる活動をしていく中で、少年たちが少年らしく元気に成長してほしいなと心から願う。

議長 自己有用感と今日のお話はつながっている。与えられていない社会とか、得る機会がない子ども達を見守る状況というのはあると思うので、非常に大事だと思う。時間があまりないが、今日まだご発言いただけていない方、もしありましたら、是非お願いします。

委員 たまたま千代地域は、約 30 年前に「千代を愛する会」というのができて、お祭りなどの運営をこの会が中心になって行っている。そういう事もあってかわからないが、今、子どもたちの活性化というよりも、千代を愛する会が千代を活性化して太鼓の練習なども小学生を集めて全部行っている。地域では竹トンボなどの竹細工を作ったりしている。だからいろんな意味で、その人たちがいろんな事をやってくれた方が楽なのかなと、逆に私は思っている。千代は子ども会活動が盛んだからいいのだが。最近思うのは中高生にいろんな催し物にでてもらう事。

昨年も保護司会では小田原市と共催で市民の集いをやって、社会を明るくする作文コンテストで前年度に受賞された方が朗読してくれた。今年も城北タウンセンターいずみで7/19の6時から社会を明るくする運動というのがある。昨年、泉中学校が社会を明るくする運動コンテストで受賞された。その方は高校生になっているが、また朗読をしてくれるという事である。少しでも中高生にいろんなところに出てもらいたいなと保護司会としても思っている。

議長 私も城北タウンセンターいずみには何う予定である。時間が来てしまった。よろしいか。今日のご発言いただけなかった委員さんもいられるが、こんな感じでやるので、また次回以降別の観点からお話しいただきたいと思う。

委員 いろんなところで私は話しているが、今子どもも大人も含めて、仲間といろんな事が出来ないとか人の話が聞けないとか、自分ではなんとか時間を持てるけど、一緒にやる事が非常に希薄になっている。そういう意味で、一番大事な小学生の時にできるだけそういう事がないように、そういう事を乗り越えられるように、我々子ども会も含めて地域の色々な団体がやっていただいていると思う。我々も子ども会という行事や色々な体験を通してそういう事をできるだけ、また子ども会の役員の皆さんにもそういう事は、子どもにできるような事をこうした場合にはこうだというような形で、いろんな形で接している。小田原市内でいろいろな団体がなくなってきたり、子どもが減ったりという事があるが、子ども会も含めていろんな団体がなければいろんな意味で子どもや大人も成長できないと思うので、ぜひよろしくお願ひします。神奈川県に、横浜、川崎、相模原を除いた子ども会の連合会というものがあり、藤沢は子ども会組織がかなり低迷してやっていないのだが、28の市町村の子ども会があつて、今年の春に行ったアンケートの結果が今日の話にかなり関連があるので参考までに紹介したい。地域の皆さんが何かやられる上でも、地域ってとても大事なとアンケートの中に出てきている。県の子ども会連合会に965の単位があつて、そのうち520ほどの子ども会から回答をいただいた。「子どもたちに人気がある行事や、子どもに経験させたい行事」はどんなものかという、やはり一番多いのはお祭り。それからボーリングやクリスマス、スポーツ大会や歓送迎会などいろいろある。2番目は「子ども会の活動はどのように役立っていますか」だが、1番多いのは近所の人と顔見知りになれる事。子ども会だけではないが、2番目が親同士の交流、

情報交換ができる事。3番目が子どもは世代間交流を通じて見聞を広めたり、挨拶や礼儀を学んだりする。まさにみなさんとの関連だと思う。4番目が地域社会の教育の大切さを痛感できる事。5番目が学校ではできない体験が出来る事。当然学校は教育の関係だから、我々のような事とは違うと思う。「子ども会の活動を楽しくするには、どんな事をすればいいか」というアンケートで1番多かったのは、子どもも役員も楽しいと思う事を実施する事。誰が見てもつまらない事をやっても当然面白くないから、楽しくやるような事をやるといいのではないかと。2番目が、一部の役員に負担を負わせないで、皆が協力する事。自治会でもみな同じだと思うが。3番目が、幼児から小学生まで異年齢の子どもたちが一緒に活動できるイベントが実施されている事がよいのではないかという事。最後にポイントだが、「あなたの子ども会では地域との協力体制がとれていますか」という質問には、520の回答のうち、460以上が「はい」と答えている。小田原市も含めて、県内で地域とみなさんが絡み合っている。子ども会を含めたいろんな団体との交流がいかにより子どもにとって貴重な体験、団体になっているかという事が分かったような気がしたので、最後にご紹介した。

議 長

副会長には最後に締めをやってもらおうと思ったが、締めていただいた。今日いただいたご意見は単にここで意見交換したというだけではなく、それぞれの立場からのご意見や実践の報告というのは、逆の立場の団体等にも参考になったと思う。特に子どもたち、青少年が持っている自己有用感、社会のために役に立ってみたいと潜在的に思っている部分というのはまだまだ発揮してもらえる機会を作れるのではないかとこの部分は共通認識になったのではないかと。そのために、より一層諸団体や、地域間、地域の中での団体間、あるいは上下のつながり、こういったものをやる事によってそれはまた作っていきけるのではないかとこの話も、今日皆さんの話から出てきた話ではないかと思う。我々行政としてもそういった観点を持ちながら、これからも対応していきたい。

以上をもって本日の議事を終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。

(4) その他

議 長

次に、その他ということで、委員の皆さんから何かございますか。

委 員	別添、資料に基づき、かながわ生活困窮者自立支援ネットワークについて説明。
議 長	他になければ、事務局から何かあるか。
事 務 局	小田原市教育委員会から「小田原市いじめ問題対策連絡会」委員1名の推薦依頼があった。推薦締め切りが6月2日だったため、引き続き橋本副会長にお声掛けをし、ご快諾いただいたので、委員として報告させていただいたので、ご了承願いたい。 (委員了承)
議 長	以上で青少年問題協議会を閉会とさせていただく。 本日は大変お疲れ様でした。